



Title	穿越小説という物語の構造
Author(s)	邱, 慧鳴
Citation	国際広報メディア・観光学ジャーナル, 16, 47-64
Issue Date	2013-03-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/52635
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	departmental bulletin paper
File Information	JIMCTS16_03.pdf



穿越小説という物語の構造

北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院博士課程

邱 慧鳴

邱慧鳴
QIU Huiming

The structure of chuan yue xiao shuo as a narrative

QIU Huiming

abstract

Chuan Yue Xiao Shuo appeared in Chinese website in the late of 1990's as a popular fun fiction on the internet, which described how modern women go back to the ancient times and search for their true love. When Chuan Yue Xiao Shuo began to attract a wider readership, it also attracted the attention of literary critics. But it turned out that it is difficult to define even the concept of Chuan Yue Xiao Shuo. By focusing on the function and the structure of Chuan Yue Xiao Shuo, we may make clear the nature of Chuan Yue Xiao Shuo as narrative today.

1 穿越小説とは

現代中国の穿越小説とは、「通り越える」というその名が示す通り現代の若者が古代にタイムスリップ、様々な事件を経験していくというパターンを持つ小説の総称である。この種の小説は、ウェブサイトに掲載され、完成するまで毎週更新される。携帯小説のように、ニューメディアを媒体とし、作家は読者の口コミを参照にしながら創作する、女性向けの小説である。出版社を経由せず、だれでもウェブサイトに穿越小説を掲載することができる。その創作過程においては、作家の想像力より、ウェブサイトという疑似共同体の役割が大きい。穿越小説はもともと台湾や香港のSF小説から始め、ネットで急速に広がり、今では、ドラマ化や映画化などのメディアミックスまで発展してきた。純文学が低迷期に陥っている中国では、ネットで、特に若者の間に人気を集めている穿越小説が様々な分野から注目されている。若者文化の一部として、またネットを媒体とする新しいタイプの小説として、穿越小説は、どのような物語なのか、更に、その物語の背後に、どのような社会的、文化的な状況があるのかをめぐって、中国では様々な観点から論じられている。

まず、文学的なアプローチが挙げられる。たとえば、穿越小説の母体は純文学なのかそれとも大衆小説なのか論じられる。穿越小説を純文学の新歴史主義小説（中国現代小説のジャンルのひとつ）の脱構築と捉える論もあり¹、それが中国古典小説の手法と共通すると論じる論もある²。更に、穿越小説の「恋」を従来のロマンス小説や武侠小説と比較するものもある^{3,4}。また、歴史についての奇想天外の扱い方をめぐって、それを穿越小説のカーニバル性（パフチン）とするものもあれば⁵、パロディ手法とするものもある⁶。そのほか、その歴史の扱い方を大衆小説一般の特質と関係付けるものもある⁷。そして、小説に現れる現代空間と古代空間の混合については、それを若者文化と関係づけるものもあれば⁸、それが穿越小説の独特なバーチャルリアリティだと論じるものもある⁹。そのほか、穿越小説のパターン（時空を超える原因、戻った時代と主人公の職業）を分類する論者もいる¹⁰。

次に、社会学的なアプローチも多数見られる。とりわけフェミニズムの立場で、穿越小説を解析する論者が多い。そうした研究は大まかに、女性作家論と作品の女性形象論に分けることができる。たとえば、現代の主人公の波乱万丈な古代生活を、現代社会に抑圧されている女性作家たちの叫びと論じる者もいれば¹¹、欲望と社会現実、伝統と現代との間を揺らぐ現代の若い女性の願いと解釈する者もいる¹²。一方、穿越小説の独特な女性像については、それが女性意識と英雄主義の変化とされたり¹³、現代への迷いと歴史認識の変化とされたりしている¹⁴。

一方、受容心理から、穿越小説を論じる論文もある。なぜ穿越小説がこ

- ▶1 陶春軍「解析歴史新歴史小説と穿越小説」、「广西社会科学」、2010年第5号、pp.89-94。
- ▶2 田苗序「穿越小説中の伝奇叙事模式探索」、「文化商業」、2011年第3号、pp.378-379。
- ▶3 ロマンス小説と比較するものとしては、劉曉桐「瓊瑤小説と「穿越小説」中愛情描写差異」、「北方文学」、2011年第9号、p.16。
- ▶4 武侠小説と比較するものとしては、徐曉芳「俠義精神和愛情模式的現代轉變—从金庸的武侠小说到網絡穿越小説」、「電影評介」、2011年第2号、pp.101-104。
- ▶5 方燕妹「解讀穿越小説的狂歡色彩」、「小説論叢」、2011年第4号、pp.89-94。
- ▶6 李玉萍「試析「劇做」手法在網絡穿越小説中的運用」、「小説評論」、2010年第5号、pp.74-79。
- ▶7 李玉萍「論歷史元素在網絡小説中的運用」、「小説評論」、2011年第5号、pp.112-115。
- ▶8 宋建峰「穿越小説流行元素下的彷徨与呐喊」、「江西廣播電視大學學報」、2010年第4号、pp.49-51。
- ▶9 李玉萍「試論網絡穿說小説的「虛偽性」審美特質」、「小説評論」、2011年第7号、pp.66-70。
- ▶10 吳心怡「穿越小説的基本模式与特点」、「当代閱讀」、2010年第3号、pp.144-145。
- ▶11 錢秀銀「[80後]女性写手与網絡穿越小説」、「哈爾濱師範大學社會科學學報」、2011年第1号、pp.138-141。
- ▶12 司艷輝、田娜「从網絡穿越小説中看現代女性的迷惘」、「文教資料」、2010年第2号、pp.14-17。
- ▶13 王珂「穿越小説承載的社會意義」、「電影評介」、2010年第1号、pp.99-101。
- ▶14 曹沁「从網絡穿越小説見其中的

現代蘊味」、「文教資料」、2008年
第6号、pp.23-24。

- ▶15 戴軍「成人的童話夢—網絡穿越
小說文化心理淺析」、「文學界」、
2009年第4号、pp.29-30。

- ▶16 徐光森「網絡穿越小說敘事策
略与接受心理」、「滨州学院学
報」、2012年第2号、pp.88-90。

- ▶17 趙帆晴「从当今穿越劇的風靡解
讀大衆的文化心理」、「文化与營
銷」、2012年第4号、pp.139-140。

- ▶18 陸山花「網絡文学類型化研究」、
「阜陽師範学院学報」、2011年第
6号、pp.76-81。

- ▶19 許林「網絡傳播对穿越小說的塑
形作用」、「創作評譚」、2012年
第3号、pp.57-59。

れほど好まれるのかについて、穿越小説に書かれる欲望の実現、愛されることへの期待と伝統家族の価値観への復帰が受容者の心理と一致しているからと論じる者もいれば¹⁵、小説は空間への幻想、不安の解消、自己実現という三つの方面において読者の訴求に答えているからと論じる者もいる¹⁶。あるいは、穿越小説は現代人が自分の生活を自由に支配したいという欲望に答えているからとの論¹⁷もある。

また、穿越小説の媒体——ネットに関心を払う論者もいる。ネットが小説をどのように変えたかについては、穿越小説を例に、ネット小説の内容の特徴を述べる論もあれば¹⁸、ネットは穿越小説の独特な産業化、受け手参与の創作過程に関わり、小説作成の際に、ネットがどのように出版社やドラマなどの伝統メディアと連動しているのかを分析する論者もいる¹⁹。

穿越小説の内容にしても、語り手と読み手の心理にしても、メディアミックスの産業化にしても、媒体にしても、穿越小説は今までの小説と異なる特徴を持つと論じられてきた。部分的には様々な変化が見られるにもかかわらず、全体から見れば、ネットを媒体とする穿越小説の構造はまだはっきりしていない。穿越小説そのものの構造を明らかにしない限り、穿越小説を全体的に把握することができない。更に、その発生や変形などを究明することも難しくなる。それらの議論の前に、まず穿越小説とはどのような構造を持つ物語なのかという基本的な問題を考察しなければならない。

2 物語の構造分析

2.1 プロットの魔法昔話の機能

穿越小説の構造を考察するとき、重要なのはその名前である。「時空を超えて恋を求める」（穿越）という名前は、たとえばリアリズム小説や大衆小説と違って、小説の手法でも、読者層でもなく、後で説明する小説の「機能」によって名づけられている。穿越小説は、更にアドベンチャー系、武侠系、SF系やファンタジー系などに細分化されている。しかし、穿越小説である限り、どの系統も必ず「時空を超えて恋を求める」という機能を持たなければならない。穿越小説の固有のパターンに気づいた論者もいるが²⁰、そのパターンを穿越小説の「機能」としては捉えていない。穿越小説の大きな特徴のひとつは小説の題材や手法ではなく、「機能」で定義されていることである。そうした物語ジャンルはごくまれであり、とりわけ同じジャンルの複数の物語に共通のいくつかの機能を確定した例は、これまでプロットの魔法昔話の分析だけである。更に興味深いのは、魔法昔話も穿越小説も「移動」に関する物語であり、どちらも何かの問題が起きた後に、主人公は違う場所へと移動し、問題を解決する筋を持つことである。時間も空間も相当離れた、ロシアの魔法昔話と現代中国の穿越小説がこれほど類似しているのは偶然なのかどうかはともかく、魔法昔話の構

- ▶20 吳心怡「穿越小説的基本模式与
特点」、「当代閱讀」2010年第3
号、pp.144-145。

陸山花「網絡文学類型化研究」、
「阜陽師範学院学報」、2011年第
6号、pp.76-81。

造分析が、穿越小説のそれに与える示唆は大きいはずである。そのために、魔法昔話を対象としたプロップやグレマスの物語の構造分析が有効である。

プロップは昔話には「基体」が存在していると指摘している。「基体」について、プロップは「文法は、『生きた言語の』基体です。こうした基体が、具体的に与えられている生にかかわる非常に多くの現象の根底にあります。この基体にこそ、学問は、その関心をさしむけます」²¹と述べている。「基体」を見出すために、「機能」が必要である。「機能」は「基体」を構成する要素である。「機能」とは、「登場人物の行為で、しかも、筋＝出来事全体の展開過程にとって当の行為がもたらす意義（位置）という観点から規定された登場人物の行為」である²²。「機能」に関して、プロップは以下の例を挙げている。

1. 王が、勇者に、鷲を、与える。鷲は、勇者を他国へ連れて行く。
2. 老人が、スーチェンコに、馬を与える。馬は、スーチェンコを、他国へと連れて行く。
3. 呪術師が、イワンに、小船を、与える。小船は、イワンを、他国へ連れて行く。
4. 王女が、イワンに、指輪を、与える。指輪の中から現れた若者たちが、イワンを、他国へ連れて行く²³。

異なる人物が主人公に異なる呪具を与え、その呪具によって、主人公は空間移動ができる。王や老人、鷲や馬などの変わる部分もあれば、「与える」、「連れて行く」などの変わらない行為もある。プロップは物語の展開にとって、欠かせないこうした変わらない行為を「機能」と名づけ、「機能」に基づいて、昔話の構造を明らかにできると主張する。彼はおよそ100編の魔法昔話を分析し、31の機能を抽出した。それぞれは、留守、禁止、違反、探り出し、情報漏洩、謀略、幫助、加害、欠如、つなぎの段階、出立、贈与者の第一の機能（試練）、主人公の反応、呪具の贈与・獲得、二つの国の間の空間移動、闘い、標づけ、勝利、不幸・欠如の解消、帰還、追跡、救助、気付かれざる到着、不当な要求、難題、解決、発見・認知、正体露見、変身、処罰、結婚である²⁴。

全体から見れば、機能は「きわめて限られ」、しかも「単一の基軸に属している」²⁵。またこれらの機能は、「対をなして配置されている」機能、「グループに分けることができる」機能と「孤立している機能」に分けることができる²⁶。同じ行為は異なる魔法昔話において、異なる機能を果たすこともあれば、ひとつの魔法昔話の中で二つの機能を果たすこともある。もちろん、昔話には機能以外にも多くの要素が存在している。機能の欠落、変形や派生なども認められる。31の機能を、実際に魔法昔話の機能を抽出する際の基準と捉えたほうが妥当であろう。

31の機能を並べるだけでは、魔法昔話の「基体」とは言えない。話の後に新たな展開が繰り返される場合もあれば、話の倒置や別の話の挿入などの場合も十分ありうる。この問題を解決するために、プロップは個々の機能と「基体」の間に、「行程（単位説話）」を導入した。「行程」とは「加

▶21 ウラジーミル・プロップ（北岡誠司、福田美智代）、『昔話の形態学』、白馬書房、1978年、p.27。

▶22 上掲書、p.35。

▶23 上掲書、p.32。

▶24 上掲書、pp.42-98。

▶25 上掲書、p.99。

▶26 上掲書、pp.99-100。

►27 上掲書、p.148。

►28 上掲書、pp.125-126。

害」あるいは「欠如」から、「褒賞」、「獲得」あるいは一般に「欠如の解消」、「追跡からの救助」までの筋の展開である²⁷。「結婚」の後に新たな筋の展開が続く魔法昔話も存在しているゆえ、ひとつ以上の行程を持つ魔法昔話がありえる。個々の機能はひとつの行程を、個々の行程は昔話の「基体」を構成していく。

そのほか、彼は機能を果たす主体に従って、登場人物の特定の行動領域を発見した。プロップは魔法昔話の31の機能をいくつかの行動領域に分けている。それぞれは「敵対者の行動領域」、「贈与者の行動領域」、「助手の行動領域」、「王女とその父の行動領域」、「派遣者の行動領域」、「主人公の行動領域」、「ニセ主人公の行動領域」である²⁸。魔法昔話の展開においては、敵対者、贈与者、助手、派遣者、主人公、ニセ主人公、王女とその父は各自の導入の仕方を持っている。登場人物は「森の精」や「魔女」のような具体的な人物ではなく、それぞれの行動領域に従って「贈与者」等に概念化されることができる。異なる魔法昔話には様々な人物が登場するが、それらの人物の行動領域は変わらない。こうして、プロップは行為としての機能を登場人物と結びつけることができた。

魔法昔話の機能分析は昔話研究の一部に留まり、プロップは、昔話以外の物語にこの研究方法を適用しようとは思っていない。31の機能も登場人物の行動領域も、魔法昔話だけの「基体」である。

2. 2 グレマスの物語の機能分析

機能分析をロシア民話研究の枠組みから解放し、物語一般に応用しようと図ったのはパリ学派である。とりわけ、グレマスは普遍的な物語の「基体」の理論化を目指している。まず、グレマスはプロップの「基体」を物語の構造と捉えなおし、構造の理論化のためには、物語の構造の構成要素としての31の機能はあまりに冗長で、限定されていると考えた。グレマスは31の機能を更に整理し、「対をなして配置されている」機能を結合し、機能の項目を20に減らした。項目間の相同関係²⁹に基づいて、20の項目を「契約」、「試練」、「主人公の不在」（移動）、「疎外と再統合」、「試練とその帰結」の五つのカテゴリーに分ける。特に、「試練」には「資格付与の試練」、「主要な試練」と「栄誉をもたらす試練」³⁰が含まれている。この五つのカテゴリーこそ、グレマスが考えている普遍的な物語の構造モデルである。五つのカテゴリーを魔法昔話に適用してみると、魔法昔話の構造は「秩序の破壊と疎外」、「資格付与」、「主要な試練」、「探索」、「再探索」、「再統合と秩序の回復」になる³¹。このモデルの一般性を証明するために、グレマスはサイコドラマ（心理劇）の機能分析を試みた。機能分析は、後の「語りの文法要理」の中で主張される物語の文法と直接に関わっている。

一方、プロップが発見した特定の登場人物の行動領域については、グレマスは行動領域をもつ行為者を「行為項」、登場人物を「演技者」に分けている。たとえば、英雄は王女を奪還したいと思い、イワンは宝具を取り戻すと決める。「演技者」レベルでは、それぞれは「英雄と王女」、「イワンと宝具」であるが、「行為項」レベルでは、どちらも「主体」が「客体」

►29 グレマスは相同について以下のように定義する。「二つの語義素SとS'とが、非Sと非S'との係わり合いにおいて相通的である」と言いうるのは、それらが共通に一つの意味素内容s、積極的辞項とみなされるが、同時に非sという消極的な形で語義素非Sと非S'の中にも存在している意味素内容sをもっている限りにおいてである。S (s) vs非S (非s); S' (s) vs非S' (非s)——A.J. グレマス（田島宏、鳥居正文）、「構造意味論」、紀伊国屋書店、1988年、p.219。

►30 資格付与の試練、帰結：補助者の受け入れ；主要な試練、帰結：欠如の除去；栄誉をもたらす試練、帰結：判別——上掲書、p.259。

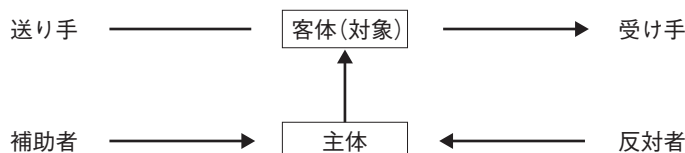
►31 上掲書、p.266。

を欲する。こうして、グレマスは登場人物を、不変的な機能を果す行為項から区別した。多数の演技者が一つの行為項になることもあれば、ひとりの演技者が多数の行為項になることもある。昔話の特定の行動領域を持つ登場人物（王女や贈与者など）を超えて、グレマスは行為項を一般の物語に適用しようとする。それぞれは、「主体」、「客体」、「送り手」、「受け手」、「補助者」、「反対者」である。互いの関係性は以下の図のようになる³²。

『意味についてⅡ』では、演技者、行為者と形象の三者の関係性が更に詳しく論じられている。

最後、物語の構造の共時性と通時性についても、グレマスは、「どのテキストも同時に永続性であり通時態である。つまりどのテキストも、少数の冗長的な基本構造によってその永続性を表出し、また基本構造との係わり合いで二次的な構造の下位系列的な分節によって通時的である」³³。すべての物語は少数の基本構造に帰属させることができ、時によっては変形していく。構造の変化こそテキストの通時性である。

■ 図



プロップからグレマスまで、機能に基づいて物語の構造を見出す方法が形成されてきた。プロップの研究を通して、同じジャンルの物語には「機能」という重複する部分が存在していることがわかった。それらを物語から抽出、定義し、物語の構造を見出す方法も示された。グレマスは、プロップの機能分析を発展させ、普遍的な物語の五つのカテゴリーを纏め、昔話だけでなく物語の本質を突き止める可能性を開いた。残念ながら、プロップもグレマスも機能分析を昔話より長い物語に使わなかった³⁴。彼ら以降、物語の構造分析は、筋ではなく、ジュネットやトドロフのようにテキスト³⁵に注目する研究が主流であり、あるいはエーコの『物語における読者』のように受容を対象とする論もかなり多い。物語の筋に関する研究にしてもプロップの機能を省いて、グレマスの記号論を直接に扱うのが現状であるが、グレマスの構造分析はプロップの魔法昔話の延長線上にあることを認める限り、物語の構造分析の一環として、機能を省くことができない。しかし、昔話より複雑で長い物語の構造の抽出を行うとすると、様々な問題にぶつかってしまう。数多い事件の中から機能を選び出すのは極めて難しい。物語の時間（語りの時間）と筋の展開の時間のずれ（たとえば、回想から始まる物語）も問題である。援助者が反対者に、求められる客体が別のものにならったりすることもよくある。特に、長編小説の場合、同じジャンルの複数の小説に特定の筋を見出すのは非常に難しい。この意味では、穿越小説の機能の抽出は中国のネット小説や若者文化の究明だけでな

▶32 上掲書、p.234。

▶33 上掲書、p.194。

▶34 グレマスは『モーパッサン——テキストの記号学』や『意味についてⅡ』の中で、モーパッサンの短編小説の構造分析を試みたが、機能から作業を始めるのではなく、直接に記号論四辺形や行為者モデルを使用して物語の構造を分析する。物語の筋に関する研究は、グレマス以外にも、C・ブレモンの「物語の論理」やバルトの「物語の構造分析序説」などが有名であるが、実際に機能を纏め、物語の構造を見出す作業が少ない。パリ学派以降は、文学研究の中では、しばしばグレマスの記号論四辺形や行為者モデルについて言及されるが、プロップのように実際に複数の物語に機能を見出し、構造を纏めるという最初の作業を行なう人は論者が読んだ限りでは見当たらない。

▶35 ジュネットによると、物語には三つの意味が含まれているという。それぞれは物語内容（あるいは話の筋）（言説の対象となる現実の出来事または虚構の出来事の継起と、それらの出来事を結びつける連鎖・対立・反復等の多様な関係）、物語言説（あるいはテキスト自体）（一つあるいは一連の出来事を引き受ける言説）、出来事（あるいは語り）（誰かが何事かを語ることによって成立する出来事）である。——ジェラルド・ジュネット（花輪光、和泉涼一）、『物語のディスクール——方法論の試み』、水声社、1985年、p.17。

く、物語の構造分析にとっても有意義である。

3 穿越小説の機能

穿越小説の構造を見出すために、まず重複する部分、すなわち機能と言える事件を列挙しなければならない。たとえば、

1. 私は、工事現場の事故に巻き込まれ、死亡し、使用人として、清の時代に目覚めた。
2. 私は、交通事故に遭い、死亡し、貴族として、古代に目覚めた。
3. 彼女は、自殺し、金持ちのお嬢さんとして、古代に目覚めた。
4. 私は、地震に遭い、死亡し、庶民として、古代に目覚めた。³⁶

いずれにしても、主人公はなんらかの理由で現代から離れ、古代に生まれ変わる。これらの事件は穿越小説の機能とも言える。穿越小説の機能を抽出する前に、まず二つのポイントを押さえておかなければならない。まずは機能の選択基準である。機能が「筋＝出来事全体の展開過程」³⁷にとって意義を持つ行為なら、穿越小説の場合、次の事件の契機を含む事件は機能に当たる。長編小説としての穿越小説では、事件が単なる行為ではないゆえ、筋の展開は単独の行為によってではなく、様々な行為を含む事件によって行われる。また、機能の順序については、事件は魔法昔話のように、筋の時間に沿って語られるとは限らない（回想などの場合）ことを考慮する必要がある。なぜなら、機能は筋に関する概念だからである。事件を語られる順番ではなく、筋の時間に沿って並べ直せば、上下の因果関係や、対をなす機能をより見つけやすい。

本論のコーパスに使われる穿越小説は「晋江文学城」というウェブサイトで掲載されたものである。「晋江文学城」は初めて穿越小説を掲載するウェブサイトのひとつであり、その多くの小説が出版もされている影響力の大きいネット小説サイトである。ユーザ数は700万人に、小説作家は50万人に達している。その内、93%のユーザは女性であり、18から35歳までの世代は全体の84%を占めている³⁸。作家も読者も十代後半から三十代前半までの若い女性たちである。クリック数が100万を超える、完成した60編の穿越小説の中で、重複している、筋の展開の契機を含む事件を抽出し、筋の時間に沿って並べると、以下のようになる³⁹。

- 1) 主人公は恋人、友達あるいは親と別れる（機能：分離）
 - (1) 主人公は何らかの理由で恋人、友達あるいは親と別れる（1、2、3、7、8、9、10、14、15、21、25、27、28、31、32、34、37、39、41、44、45、48、51）。両親の死亡（13）や、旅の途中（16、29、47）などがある。別かれる前の状況についてはあまり言及されていない。分離の理由は、恋人や友達の裏切りや親との別居などが普通である。

▶36 のちの付録の番号は2、3、5、9

▶37 ウラジーミル・プロップ、上掲書、p.35。

▶38 <http://www.jjwxc.net/aboutus/> (2012年8月1日まで)

▶39 付録参照

- (2) 分離の強化された形は、社会との分離である。主人公はあることに夢中で、人間関係を持たない。働きマン（4、5、6、26、35、38、46、52、55）や、ネット小説マニア（22、36、40、50）などが普通である。
- (3) 場合によると、主人公は周りとは溶け込めない。ほかの人と違う考えを持つ（54）、病弱（11）、周りをつまらなく感じる（12、17、18、19、20、24、30、33、43、56、59）などがある。
- (4) 「分離」が欠けることもある（23、42、49、53、57、58、60）。

2) 主人公は事故に遭う（機能：事故）

- (1) 主人公は事故に遭い、死亡あるいは意識不明になる（1、2、3、4、5、6、7、8、10、11、12、14、16、17、18、19、21、22、23、24、25、26、28、29、30、31、32、33、34、35、37、38、39、40、43、44、45、46、47、48、49、51、52、59）。事故の原因は交通事故、工事現場の事故、感電事故、家のガス漏れなどが普通である。
- (2) 事故の弱められた形は睡眠である。主人公は古代に目覚める（9、15、20、27、36、41、50、55）。
- (3) 「事故」が欠けることもある（13、42、54、56、57、58、60）。

3) 主人公は新たな身体を手に入れる（機能：再生）

- (1) 主人公は古代の女性に姿が変わる（1、2、3、4、5、6、7、8、9、13、14、15、16、17、18、19、20、22、24、25、26、28、29、30、31、32、33、35、37、38、39、40、41、42、44、45、46、48、49、50、51、52、54、56、58、59、60）。身体の幼児化を伴うことが多い。また、女性が男性に、人間が動物に変わることもある。
- (2) 再生の弱められた形は、主人公は行方不明になった女性に間違われる（12、21、43、57）。
- (3) 場合によると、身体の変化がないこともある（10、11、23、27、34、36、47、53、55）。この場合、主人公は積極的に新しい身分を作る。

4) 主人公は周りの状況に適応する（機能：適応）

- (1) 主人公は周りの環境に適応し、自分に関する情報を探り出す（1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35、36、38、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48、50、51、52、53、54、55、56、57、58、59、60）。この段階で、客体が登場する。主人公は将来の恋人と出逢う、あるいは生きがいを見つけることが多い。
- (2) 適応の逆の形は主人公がパニックになり、周りの人から自分の情報を教わる（14、37、49）。

5) 主人公は自分の社会身分を演じる（機能：模倣）

- (1) 主人公は新たな身分を演じる (1、2、4、5、7、8、12、14、16、17、18、19、24、25、26、28、29、31、33、38、41、42、43、44、45、46、50、51、52、58、59、60)。
- (2) 模倣の逆の形は新たな身分を現代風に改造する (3、6、9、13、15、20、21、22、30、32、35、37、39、40、48、49、54、56、57)。主人公は現代の生き方に従って行動する。
- (3) 身体変化のない場合は、主人公が新たな身分を作る (10、11、23、27、34、36、47、53、55)。

6) 新たな身分がもたらす難題 (機能：一度目の難題)

新たな身分は主人公にさまざまな問題をもたらす。最初の反対者あるいは援助者が登場する。

- (1) 主人公は権力の紛争に巻き込まれる。宮廷紛争 (1、2、3、23、29、34、35、37、49)、大家族内の紛争 (4、17、18、19、46、51、59)、武術流派内の紛争 (13、56)、国内の紛争 (14)、拉致 (7、31)。
- (2) 職場や家庭の問題。仕事の難問 (5、6、8、9、10、11、16、24、36)、職場のいじめ (52)、事件に遭う (25、38、43)、債務 (60)、宗教問題 (56)、貴族の懲罰 (39)、貧乏 (41、42)、離婚 (34) 家族内のいじめ (32、54、55、57)。
- (3) 主人公に任務が与えられる。王の野望の実現 (21)、歴史を突き止める (33)、道場破りの人に勝つ (22)、試練 (28)、恋人の手伝い (20)、神から与えられた王朝を滅ぼす任務 (45)、町を襲う盗賊の退治 (47)。
- (4) 社会制度がもたらす問題。家父長制あるいは君主制 (12、15、26)、成人式 (27)、婚約の実現 (30、31、44、50)、実家に連れられる (62)、女性を略奪する慣習 (58)。
- (5) そのほか。動物に捕まる (53)、決まった運命から逃げる (40)、元の身分の罪 (48)。

7) 主人公は難問を解決しようとする (機能：難題の解決)

- (1) 主人公は難問を解決する (1、2、4、5、6、8、9、10、11、13、15、18、19、20、21、22、23、24、27、28、31、32、33、34、36、37、38、39、40、42、43、44、47、50、51、52、53、55、56、57、59、60)。ほとんどの場合、主人公は成功するが、成功しないこともある (41、46)。
- (2) 難題の解決の弱められた形は主人公が援助者に助けてもらう (3、7、12、14、16、17、25、26、29、30、35、45、48、49、54、58)。

8) 主人公は人間関係を改善する (機能：補助者の獲得)

- (1) 主人公は周りに認められたり、友達ができたりする。この先の補助者を獲得する (1、3、4、5、6、7、8、9、11、12、13、15、16、18、19、20、22、23、24、25、26、29、30、31、32、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、47、50、51、52、53、

54、55、56、57、58、59、60)。

- (2) 弱められた形は契約である。契約 (2、48)、賭け (10、14、17、21、27)、責任 (28、33、49) がある。

9) 主人公は被害に遭う (機能：一度目の被害)

主人公は被害に遭う。

- (1) 直接に被害に遭う。拉致 (1、28、30、36、38、56)、暗殺 (2、5、11、14、15、23、29、35、37、48)、病気 (4)、嵌められる (6、7、32、44、56)、恋人と別れさせられる (12、17、23)、誤解される (13、45)、罰せられる (24、26)、ケンカ (53)、川の中に押される (55)、売られる (40)、部屋が侵入される (43)、試合に出させられる (22)、物が盗まれる (31)。
- (2) 何らかのことに巻き込まれる。事件に巻き込まれる (8、9、10、16、18、19、20、25、33、49、51、57)、戦争に巻き込まれる (21、47、58)、宮廷紛争に巻き込まれる (27)。
- (3) 周りの人が被害に遭う。夫の病気 (34)、家の事件 (41)、お父さんの暗殺 (59)。
- (4) 被害の弱められた形は移動させる。旅に出させる (3、25、52、60)、家を出させる (39、42、46、50)、嫁に行かせる (54)。

10) 主人公は反対者を探り出す (機能：探し出し)

- (1) 主人公は反対者あるいは危険を確認する (1、3、5、6、10、11、14、15、18、19、25、27、28、29、31、34、37、39、41、42、43、46、48、50、51、52、54、56、57、59、60)。
- (2) 逆の形は反対者が主人公に近づく (2、4、7、8、9、12、13、16、17、20、21、22、23、24、26、30、32、33、35、36、38、40、44、45、47、49、53、55、58)。

11) 主人公は再び被害に遭う (機能：二度目の被害)

主人公はもう一度被害に遭う。新たな反対者が登場することもある。

- (1) 直接に被害に遭う。暗殺 (1、3、12、14、29、35、37、48)、嵌められる (4、5、7、28、32、43、59)、拉致 (11、30、36、40、52、60)、毒薬を飲まされる (6、25)、事故 (24、31)、監禁 (33)、捕まる (50)、厳しい冬を凌ぐ (53)、賭け (55)、病気 (39)、脅かされる (45、47)、店の問題 (46)。
- (2) 巻き込まれる。事件に巻き込まれる (8、10、12、13、15、16、19、49)、宮廷の紛争に巻き込まれる (23、26、27、38)。
- (3) 周りの人が被害に会う。恋人が毒薬を飲まされる (20)、親しい人の被害 (21、22)、家族内の紛争 (51、54、56、58)。
- (4) 被害の弱められた形は移動する。現代で目覚める (2)、家を出る (9、17、18)、ほかの町に行く (34、42、44、55、57)、嫁に行く (41)。

12) 補助者は主人公を助ける (機能：援助)

- (1) 補助者は主人公を助ける。多くの場合、補助者は恋人、家族、友達、使用人などである (1、2、3、4、6、7、9、10、12、13、14、16、17、18、19、20、22、23、24、26、27、28、31、33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48、50、51、52、53、54、55、56、57、58、59、60)。
- (2) 援助の弱められた形は補助者が主人公の移動を手伝う。古代に戻る (2)、ほかの町に行く (5、8、11、15、21、25、29、30、32)。

13) 主人公は恋を達成する (機能：恋の達成)

- (1) 主人公は恋を達成する (1、2、3、5、6、7、10、11、13、14、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、30、31、35、36、37、38、39、41、42、43、45、46、47、48、50、51、52、53、54、55、56、57、58、59、60)。
- (2) 恋の達成の弱められた形は好きな人との再会である (4、8、9、12、15、32、33、34、40、44)。

14) 主人公はもう一度難問に遭う (機能：二度目の難問)

主人公は今までと違う生活を送るようになる。その際に、主人公の身分はもう一度難問をもたらす。

- (1) 主人公は権力の紛争に巻き込まれる。宮廷の紛争 (1、2、5、14、15、16、26、27、29、39、42、48)、脅かし (18、20、35、36、53)、拉致 (6、11、21、25、38、46、44、55)、国内の反乱 (10、13、31、37、60)、戦争 (17、47、49、50)、暗殺 (22、40)、監禁 (28、30)、国家との対立 (32)、勢力の紛争 (8、52)。
- (2) 職場や家庭の問題。誤解 (4、12、43、59)、復讐 (7)、事業と家庭の両立 (9、23)、恋人と別れさせられる (24、57)、病気 (34、58)、家族内の紛争 (41、51、54)。
- (3) 主人公に任務が与えられる。宝物さがし (3)、庶民を救う (33)。
- (4) そのほか。家父長制 (19)、神に逆らったために罰せられる (45)、犠牲者が出る (56)。

15) 主人公は難題に挑戦する (機能：難題への挑戦)

主人公はこれらの難題に挑戦する。

- (1) 戦闘。戦争に参加する (8、13、17、23、37、47、49、50、52)、戦闘に挑む (21、25)、神と対戦 (45)。
- (2) 被害の解消。毒の治療 (38)、誤解を解く (4、43、59)、家庭内の地位の修復 (51)、冬を凌ぐ (53)。
- (3) 紛争と事件を解決する。宮廷紛争 (1、6、7、11、14、24、26、27、29、30、42、48)、事件の解決 (31、54)、事件の真相 (10、13、15、18、28、34、56)。
- (4) 難題の挑戦の弱められた形は歴史の知識あるいは補助者の援助を通

じて、危機を乗り越える（2、3、5、9、19、20、22、32、33、35、36、40、41、44、46、49、55、57）。

(5) 難題の挑戦の逆の形は主人公の移動である。主人公は難題を避けるため、別の場所に移動する（12、16、39、58、59、60）。

16) 主人公は勝利を収める（機能：勝利）

主人公は難題をうまく解決し、勝利を収める。

(1) 反対者への懲罰。反対者の死亡（1、5、7、35、37）、敵の正体を暴く（10、13、15、28、34、56）、敵を捉える（29）。

(2) 難題の解決。危機の解決（3、6、8、9、11、14、17、18、19、20、22、25、26、27、30、31、32、33、36、41、42、46、49、52、55、57、60）、誤解が解ける（4、12、43、59）、歴史を変える（2、23）、戦争に勝つ（35、47、50）、病気が治る（58）、家庭内地位の回復（16、51、54）、復活（45）、契約を結ぶ（24）。

(3) 勝利の逆の形は主人公の脱走（21、28、40、48）。

(4) 勝利の弱められた形は補助者の援助を受ける（38、39、44、53）。

17) 主人公は日常生活を暮らしたいと願うようになる（機能：日常への思い）

(1) 主人公は普通の生活を願うようになる。この段階で、客体が変わる（1、2、3、4、5、6、13、14、15、24、26、28、29、30、34、35、36、37、38、39、40、41、44、45、46、47、49、50、52、53、54、59）。

(2) 日常への思いの弱められた形は主人公が恋人と一緒にいたい（7、8、9、10、11、12、16、17、18、19、20、21、22、23、25、27、31、32、33、42、43、48、51、52、55、56、58、57、60）。

18) 主人公は最後の反対者と戦う（機能：最終の戦闘）

主人公は願いを達成するために、最後の反対者と再度戦う。

(1) 戦闘。戦争（1、2、3、6、7、14、15、21、23、32、37、45、47、49、52、58）、反対者との戦闘（34、43、55）。

(2) 紛争。宮廷の紛争（5、11、12、17、31、26、27、39、42、44、48、50、56、60）、家族内の紛争（19、41、46、51、54）、復讐（29）。

(3) 難題。誤解（4）、結婚の障害（9、33）、家族事業の危機（45、57）、事件の真相（10、13、16、18、20、22、25、28）、与えられた任務（24）、恋人の拉致（38）、育児の難問（53）。

(4) 戦闘の反対の形は戦闘から逃げる（8、30、35、36、40、59）。

19) 主人公は日常生活に戻る（機能：日常への復帰）

(1) 主人公は世間から離れた場所で日常生活に戻る。戦闘から逃げても、主人公はほかの場所で暮らす（1、4、5、6、7、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、

29、30、31、32、34、36、38、39、40、41、42、44、45、46、47、48、50、51、52、53、54、55、56、57、58、59、60)。

(2) 主人公は現代に戻る (3、33、37)。

(3) 日常への復帰の弱められた形は主人公が死ぬまで事件や衝突がない (2、35、49)、その際に補助者や反対者は登場しない。

穿越小説の機能以外の部分の分量は魔法物語より多い。主人公は一連の事件に関わるが、ごく一部の事件のみ物語の展開の契機となる。たとえば、53番では、主人公はサバイバルのために、水源探しや環境の調査など多くの行動を取ったが、これらの事件は展開の契機ではない。また、様々な事件が一つの大きな事件を構成する場合もある。たとえば、1番では、主人公の新たな身分は王朝の権力者の一人であり、身を守るために、さまざまなライバルと戦わなければならない。これらの事件はすべて一度目の難題を構成する。ゆえに、穿越小説の事件は冗長で、繰り返されることが多い。

穿越小説の基本構造は「分離」から始まり、いくつかの難題と被害を通じて、日常へ復帰する物語である。「欠如」から「欠如の解消」までを一つの行程とすれば、穿越小説の機能は三つの行程に分けられる。発端の「分離」は人間関係の破綻とも言える。主人公は孤独で社会から疎外されている。人間関係を修復できず、主人公は事故に遭い、古代に甦る。その後に続く「適応」と「模倣」は疎外された現代の主人公がどのような環境に置かれるのかを説明し、客体を決める段階である。筋を進めるのは「一度目の難題」である。「一度目の難題」は主人公の新たな身分がもたらした難題で、その帰結は補助者の獲得であり、魔法昔話と対照すると、グレマスの言う、主人公が新たな身分に適応できるかどうかの「資格の試練」(帰結: 補助者の受け入れ) に当たる。主人公は難問を通じて、人間関係を修復し、補助者を獲得する。疎外された主人公は古代で、人間関係の修復を果たした。「人間関係の破綻」から「人間関係の修復」までは第一行程である。次に、主人公は「被害」に遭い、反対者を「探り出す」。「被害」の後に、「二度目の被害」が続き、補助者の援助で危機を乗り越える。「被害」を蒙った主人公の補償は「恋の達成」である。欠如の「被害」から補償の「恋」までが第二行程である。この段階は、恋を達成した主人公の欠如がなくなることから考えれば、グレマスの言う、「主要な試練」(帰結: 欠如の除去) に当たる。そして、主人公は二度目の難問に遭い、戦闘し、勝利を収めるが、日常生活を望むようになる。願いを実現するために、主人公は反対者と戦闘し、ようやく日常生活に復帰する。「二度目の難題」から「日常への復帰」までは物語の第三行程である。この部分には、魔法昔話の「判別」が見られないが、主人公が客体を手に入れたことを「成就」だとすれば、グレマスの言う、「成就」を作る「栄誉をもたらす試練」に当たる。「人間関係の破綻」から「人間関係の修復」へ、「被害」から「恋の達成」へ、「二度目の難題」から「復帰」へと物語は進む。三つの行程はそれぞれ反復される場合があり、途中で次の行程が挿入される場合もある。たとえば、「被

害」から「恋の達成」までの第二行程が重複され、恋が深まっていく場合もあれば、補助者をまだ獲得していないうちに、被害が始まる場合もある。しかし、どの穿越小説にも三つの行程が存在している。主人公は波乱万丈の人生を経験していくが、結局もとの日常に戻る。結末の日常生活は冒頭の孤独な日常ではなく、幸せな日常である。すなわち、物語を通して、主人公は社会と切り離されても欠落を感じなくなるわけである。

以上のように、穿越小説の機能と登場人物の行動領域は魔法昔話と重なっている部分もあれば、異なっている部分もかなりある。新しい機能をグレマスのように更に簡潔な目録に還元し、各行為項の役割を魔法昔話と対照すれば、物語の構造が魔法昔話とどのように違うのかが分かる。

4 穿越小説という物語の構造

4. 1 穿越小説の構造

これからの作業は19の機能を持つ穿越小説の構造は何を意味するのか明らかにすることを目的とする。なぜなら、構造の意味を明らかにしてこそ、穿越小説の特徴が分かるからである。更に、この作業は穿越小説の各変形の理解にもなる。まず、グレマスのやり方で、対を成す機能を組み合わせると、19の機能を14に減らすことができる。

1) 分離、2) 事故・再生、3) 適応・模倣、4) 一度目の難題・難題の解決、5) 補助者の獲得、6) 一度目の被害、7) 探り出し、8) 二度目の被害・援助、9) 恋の達成、10) 二度目の難題・難題への挑戦、11) 勝利、12) 日常への思い、13) 最終の戦闘、14) 日常生活への復帰

「分離」は物語の発端である。「分離」のきっかけは、主人公が恋人や親友に裏切られたり、親に捨てられたり周りの人に溶け込めなかったりし、主人公の生活秩序が侵害されることである。「社会との分離」の場合、主人公の生活がそもそも欠如状態にある。「分離」の前提は「結合」である。「結合」が存在しないと、主人公は他人と「分離」することはない。そして、社会との結合を前提に、主人公は「社会との分離」を欠如状態と感じる。穿越小説の発端は、そうした「結合」状態を破壊する個人秩序の侵害・欠如である。

2番の「事故・再生」は、グレマスの「移動」に当たる部分である。グレマスによると、「移動」は出発と気づかれない到着、戦闘の場所への到着の瞬間と帰還によって構成されている⁴⁰。穿越小説の「移動」には出発(事故)と戦闘の場所への到着の瞬間(再生)があるのに対して、(元の世界への)気づかれない到着と帰還は欠けている。「再生」以降のすべての移動は独立した機能ではなく、機能の一部になってしまった。次の「適応・模倣」は魔法昔話に見られない、穿越小説の特別な機能であり、新たな世界で物語が展開するために、主人公が必要な情報を探り出し、新たな身分

▶ 40 Mieke, Bal. *Narratology: Introduction to the Theory of Narrative*. University of Toronto Press, 1998. p.198.

►41 グレマスによると、「どの試練も…、次の機能と機能対とをそれらが継起する順に含んでいると言える：A=指令vs受諾、F=直面vs成就、非c=帰結」A.J. グレマス、上掲書、p.258。

を確定する段階である。筋の展開にとってこの段階でもっとも重要なことは主体が客体を決めることである。

5番から14番までの一連の被害と難題は、グレマスの「試練」⁴¹にあたる部分である。グレマスによると、「試練」では、必ず一人が指令を下し、一人がそれを受け取る。穿越小说の場合、「試練」が「難題」や「被害」の形で現れるのは、主人公に「試練」を与えるのが人物ではなく、「運命」だからである。「難題」や「被害」は必ずしも人為的なものとは限らず、時々自然災害、社会制度や戦争などである。魔法昔話の英雄が自ら「試練」に挑むのと違って、穿越小说の「試練」は受けざるを得ない「試練」である。ゆえに、魔法昔話の英雄は「試練」に直面して、成就を遂げるのに対して、穿越小说の主人公は難題や被害から逃げる場合もある。前で述べたように、「試練」は三つの行程に分かれ、それぞれの帰結は「補助者の獲得」、「恋の達成」と「日常生活への復帰」である。「補助者の獲得」は人間関係を、「恋の達成」は被害を修復する。第二行程と第三行程の間に、「二度目の難題」が挟まれ、主人公はもとの願望を変え、社会から離れたところに、恋人と二人で暮らすことを望む。客体の変換によって、主人公は結末に自ら「分離」を選ぶ。結末の「復帰」で主人公は再び分離状態に戻るの、「日常生活への復帰」を「欠如への復帰」と解釈したほうがいだろう。

グレマスの還元された魔法昔話の構造と対照しながら、すべての機能の再編成を試みた。再編成された機能の目録は、「個人秩序の侵害・欠如」(1)、「客体の確定」(2-3)、「補助者の獲得」(資格付与) (4-5)、「欠如の除去」(主要な試練) (6-9)、「客体の変換」(10-12)、「欠如への復帰」(榮譽をもたらす試練) (13-14) である。

4. 2 穿越小说と魔法昔話の相違点

グレマスの五つのカテゴリーに合わせて、魔法昔話が還元された目録(「秩序の破壊と疎外」、「資格付与」、「主要な試練」、「探索」、「再探索」、「再統合と秩序の回復」)と比べると、穿越小说の特徴が見えてくる。まず、穿越小说には「契約」が欠けている。また発端と結末を対照すれば、穿越小说には「再統合と秩序の回復」が欠けている。なぜ回復ではなく、欠如を望むかという、穿越小说には外部の送り手との「契約」が存在していないからである。「契約」には送り手が不可欠である⁴²。魔法昔話の場合、年配者(送り手)の課した禁忌が破られたことをきっかけに、様々な災いが降りかかる。結末の「再統合と秩序の回復」では主人公は王(送り手)に英雄として認定され、その娘との「結婚」という新たな契約を結ぶ。一方、穿越小说では、外部の力と見なされる送り手が主人公に内包されているゆえ、外部との「契約」が存在しない。送り手は「運命」なので、主人公は予め外部の送り手と契約を結んでいない。結末でも、送り手に認定され、新たな契約を結ぶことができない。外部との「契約」が存在していないゆえ、主人公は欠如状態を自力で修復することができず、客体を変えることで欠如状態を受け入れるしかないのである。

そして、「移動」に関わる「探索」と「再探索」が欠けている。穿越小

►42 上掲書、p.257。

説に移動がないわけではないが、魔法昔話とかなり違う。魔法昔話では、移動は主人公が目的を持って戦場に赴く自発的な行動であり、戦闘前後に位置する機能である。一方、穿越小説の唯一それ自身が機能である「移動」（「事故・再生」）は運命による強制的で、帰還のない移動である。それ以降の移動は戦闘被害そのもの（9「一度目の被害」、11「二度目の被害」）や、被害の解決策（12「援助」、15「難題への挑戦」、16「勝利」）の主人公の脱走、18「最終の戦闘」の主人公の逃避、19「日常への復帰」としての現代に戻る）といった他の機能の一部である。グレマスは移動の速さを「願望の強さ」で説明し、「行き」と「帰り」の間を「物語のことは関係のない他のある場所での主人公の滞在」⁴³と指摘している。魔法昔話の「行き」と「帰り」を行う移動は、英雄が二つの世界の仲介役を担い、二つの世界に積極的に接近することを表している。穿越小説の他の機能の一部になった移動は、二つの世界ではなく、ひとつの世界（特に試練）の中で行われ、しかも自発的ではない。また、それ自身が機能の移動も「帰還」の不在のゆえ、二つの世界の媒介の行為ではなく、グレマスの「物語のここ」（欠如の現代）を遠ざけ、「他のある場所」（古代）に留まる行為になる。

また、穿越小説の試練とその帰結は魔法昔話のそれと対応している。「一度目の難題」と「資格の試練」はどちらも送り手が主人公に難題を与え、それを乗り越えた主人公は補助者を獲得する。「一度目の被害」と「二度目の被害」は、「主要な試練」と同じように、主人公が反対者と（受動的あるいは能動的に）戦い、冒頭の欠如状態を修復する。「最終の戦闘」と「荣誉をもたらす試練」ではどちらも主人公が客体を手に入れ、目的を達成する。しかし、魔法昔話と比べると、穿越小説の多くの試練は「被害」の形で現れる。なぜなら、主人公は事前に送り手と、試練を克服し、援助の力をもらう約束をしていないからである。ゆえに、穿越小説の「試練」は英雄の戦闘ではなく、思いがけない外部からの主人公の空間への侵害である。

最後、魔法昔話と比べると、穿越小説では主人公以外の登場人物の役割が限られている。主体、客体、送り手がそれぞれ独立している魔法昔話と違って、穿越小説の主体は客体と送り手を内包している。主人公は主体でありながら、客体を受ける受け手でもある。客体は主人公の生活目標あるいは生き甲斐である。それを決めるのも主体である。結末に近づけば、客体が変化する。主人公は物語の冒頭で決めた新たな人生の目標を覆し、普通の生活あるいは恋人との生活を望むようになる。送り手は、主人公に使命や補助者を与え、英雄を認定する王や年配者の「送り手」ではなくなったが、送り手がないわけではない。グレマスは「送り手」をはっきり定義していないが、ミーケはそれを「主体に目的を達成させる力（主体自身の力では達成できない）」であり、「多くの場合、〈送り手〉は一人ではなく抽象の概念である。例えば、社会、運命、時間、自己中心、愚昧などである」⁴⁴と定義した。すなわち、送り手は物語全盤に大きな影響力を与える存在である。この定義は現代の小説に適していると思われる。主人公の波乱万丈の生活を生じさせた送り手は一人の人間ではなく、運命である。主人公以外には補助者と反対者のみが登場するが、しばしば反対者は貧乏、

►43 上掲書、p.261。

►44 上掲書、p.199。

冬、食料不足、自然災害などであったり、補助者は組織、国、軍隊であったりする。穿越小说の反対者と補助者はよく変化する。彼らは途中で死んだり、捕まったり、遠くに行ったりする。一つの事件を解決した後に、すぐに新たな反対者あるいは補助者が登場する。極端に言えば、穿越小说は、運命に翻弄される主人公が目標を求めているうちに、数々の反対者や補助者に出会う物語である。

纏めてみると、魔法昔話との主な相違点は「契約」の不在、「探索」と「再探索」の不在、「試練」の「被害」への変化、主体の役割の拡張、送り手の背景化である。行為項レベルの送り手の背景化によって、機能レベルでは、「契約」の不在と、「試練」が「被害」に変わる現象が見られる。また、行為項レベルの主体の役割の拡張とともに現れたのは、機能レベルでの「探索」・「再探索」の不在である。この二つの現象から見れば、穿越小说という物語は魔法昔話より、もっと閉鎖された環境の中で行われることがわかる。筋の展開に参与する行為項（送り手と客体）が主人公に内包され、外部との「契約」と物語の世界についての「探索」・「再探索」が消え、自ら挑む「試練」が外部からの「被害」に変化した。行為項においては、主人公の役割が拡張しているのに対して、ほかの登場人物の役割が縮小している。機能においては、もともと二つの世界で展開する魔法昔話と違って、穿越小说の筋は、グレマスの言う「ここ」は現代として遠ざけられる、帰還のない物語であり、異世界内部に留まっている。すなわち、現実空間から離れた空間へ、主人公の個人空間が膨張し続けている。物語全般に影響力を与える送り手が背景化されたゆえ、この傾向は更に強まっている。

5 | 終わりに

本論では、プロップ・グレマスの物語の構造分析と対照させつつ、穿越小说のコーパスを分析し、物語の機能と構造を、つまり穿越小说は主人公の個人空間が膨張し、欠如状態から欠如状態までを循環し、帰還のない「移動」の物語であることを明らかにした。こうした構造を持つ穿越小说は魔法昔話と所々違い、より閉ざされた環境の中で展開される。この現象にどのような現代的意味があるかを探ることが今後の課題である。更に、この構造と現象は穿越小说の独特な性質なのか、それともほかのサブカルチャーの物語にも見られるのかもまた問題である。

参考文献

- ウラジーミル・プロップ（北岡誠司、福田美智代訳）、『昔話の形態学』、白馬書房、1978年
 A.J.グレマス（田島宏、鳥居正文訳）、『構造意味論』、紀伊国屋書店、1988年
 A.J.グレマス（赤羽研三）、『意味について』、水声社、1992年

Mieke, Bal. Narratology: Introduction to the Theory of Narrative. University of Toronto Press, 1998

付録

番号	作品名	作者	掲載日	クリック数	番号	作品名	作者	掲載日	クリック数
1	青蓮記事	葡萄	2005.09.01	43518705	31	満酒如風	星無言	2008.04.27	5195098
2	穹我的前半生我的後半生	空夕	2006.09.30	23234490	32	寧非	狂言千笑	2009.10.02	5179367
3	午門回廊	影照	2007.08.11	22617399	33	不負如來不負卿	小春	2007.10.16	5047523
4	最核心	東籬菊隱	2007.11.13	21205152	34	淡雲來往月疏疏	草芯人	2008.06.20	5002215
5	清華・繁華塚	段琳琅	2007.04.25	18277934	35	清・旧夢一統	段琳琅	2007.11.08	4597946
6	有鳳來儀	蝶兒蝶兒舞	2007.09.16	16444736	36	穿越之天雷一部	蜀客	2008.11.06	4525755
7	月沈吟	卿妃	2007.08.21	16403356	37	以王之名	那只狐狸	2007.11.20	3960537
8	情不自禁	墨妖	2007.05.24	16219613	38	執子之手將子拖走	天下無病	2009.11.09	3766567
9	三教姻緣	笑声	2007.11.28	15038957	39	三世緣	太平洋的貝殼	2008.07.24	3736696
10	穿越之第一夫君	蜀客	2007.10.05	13023318	40	無肉不歡	橘花散里	2010.08.29	3620998
11	穿越与反穿越第一卷	妖舟	2006.06.05	12991084	41	天啓悠閑生活	看泉閑風	2009.12.24	3450667
12	盈月舞清風	逐汐	2007.07.13	12578625	42	穿越不是電視劇	抽風的漢兮	2007.09.13	3357884
13	斜陽若影	狂言千笑	2006.08.24	12386184	43	穿越事件簿	靈犀閣主	2009.04.24	3341007
14	少年丞相世外客	小佚	2007.08.14	11318113	44	天生涼薄	星無言	2009.04.28	3147535
15	如夢令	惊鴻	2007.03.30	11123368	45	莫笑我胡為	愛爬樹的魚	2009.02.25	2730662
16	玉顏皎風	如夢悠悠	2008.03.22	10951086	46	穿越做回母親妈妈	楚湘雲	2010.01.29	2428070
17	双阙	海青拿空牙鵲	2007.06.12	10571209	47	尘沙下的傳奇	闷闷的陶罐	2007.04.28	2369376
18	尋愛上夕弦月	花清晨	2007.04.06	10242829	48	痞女闖天下	無影有踪	2009.06.11	2297097
19	書虫在清朝的米虫生活	千本桜景嚴	2008.12.05	9590013	49	四爺，我愛宅	秋水伊人	2010.01.06	2240433
20	琉璃般若花	Fresh 果果	2007.05.03	9389087	50	穿越後的悠閑生活	信用卡	2010.04.21	1914582
21	絕艷皇朝之誘魂	清渺	2006.05.23	9318784	51	小鳳不是仙	蜀客	2010.09.27	1833805
22	穿越之武林怪伝	蜀客	2008.01.04	9308201	52	滿庭芳	多木木多	2010.01.21	1664286
23	醉遊記	八喜	2007.05.24	8941666	53	失落大陸	多木木多	2011.03.22	1451824
24	夢転紗窗曉	冰之葡萄	2007.06.11	7054995	54	滿酒出牆	小晚	2009.05.26	1447641
25	薄荷茶靡梨花白	電線	2007.04.16	6912527	55	烏龍女件差	雲吉錦綉	2008.08.24	1284790
26	至愛吾愛	靈素	2007.03.27	6454807	56	庶女生存手冊	御井烹香	2011.04.07	1277497
27	太平	書閑庭	2006.05.06	6075502	57	林小棠在末世	小瓢瓢	2011.05.16	1267191
28	鐫石	君芷毓	2007.03.28	5468300	58	花好孕園	八月薇妮	2011.08.28	1266855
29	弄玉風雲	禾晏山	2007.08.14	5289868	59	若薇	天望	2009.03.28	1108387
30	秦簡	思諾源	2007.09.02	5273660	60	金玉滿堂	薄暮顏	2011.03.19	1059932

注：http://www.jjwxc.net/（2012年8月1日現在）

（平成24年12月19日受理、平成25年1月17日採択）